

「ODA70年」を問うオンライン連続講座

ODAは途上国の人びとも豊かにしたか？

10月6日は、「国際協力の日」（1987年制定）とされています。70年前のこの日にODA（政府開発援助）が開始されたことに由来するものです。

ODAは、「途上国の経済開発や福祉の向上に寄与することを主たる目的とする（OECD/DAC 経済協力開発機構/開発援助委員会）」と定義されています。

しかし、2023年6月の「開発協力大綱」は、ODA・「開発協力」を政府の安全保障戦略に完全に従属させ、事実上一体化させるとともに、「国益」追求を後押しするものとして定義しました。



インドネシア、スマトラ島中部に建設されたコトパンジャン・ダム。2万3千人が移住を強いられた。



2009年9月10日、コトパンジャン・ダム裁判地裁判決記者会見

これによると、ODAは、重要な外交ツールかつ「国益」を重視するものだそうです。すなわち、「援助」が外交ツールであり、その目的を「国益」に定めているのです。では、ODAと「国際協力」の関係が密であるならば、「国際協力」も「国益」重視の外交ツールを内容とすることになります。これにはさまざまな疑問が出てきます。

「援助」とは何か、「国際協力」とは何か。こうした問いかけから始めましょう。ODAを点検すると、そこには深刻な問題があるからです。

この講座では、具体的な例として、インドネシア、コトパンジャン・ダムプロジェクトと裁判、インド新幹線（ムンバイーアーメドバード間高速鉄道）プロジェクト、対ビルマODAなどを取り上げます。スタッフが解説していきますが、皆さんとの討議を通じて深めたいと思います。

第1回は、「ODA総論」として、2024年11月23日（土）に開催

ODAと「国際協力」の関係、ODAの問題点、ODAに代わるシステムの必要性を明らかにしていきます。ふるってご参加ください。

	日時	テーマ
第1回	2024年11月23日 (土) 14時～15時30分	ODA総論
第2回	2024年12月下旬	コトパンジャン・ダム裁判
第3回	2025年1月下旬	インド新幹線プロジェクト
第4回	2025年2月下旬	対ビルマODA
第5回	2025年3月下旬	「新開発協力大綱とOSA」

第2回以降の日は追って連絡します。下記ホームページに掲載しますのでご確認をお願いします。なお、参加は無料ですが、ZOOMを使用するオンライン開催のみとなりますので、希望される方は、前々日までに下記までメールで連絡をお願いします。ZOOM参加のURLと資料を送付いたします。



2017年8月9日、インド、8月のクランティ・デイ(August Kranti Day)に際して、農業、牧畜、漁業、および部族コミュニティの10万人を超える人々がタラサリ(マハラシュトラ州バルガル地区)に集まった。手付かずの土地に計画されている複数のプロジェクト(デリー・ムンバイ産業回廊、新幹線、高速道路、原子力発電所、ダム)に反対するためである。

- 主催: コアネット(戦略ODAと原発輸出に反対する市民アクション) HP <http://coa-net.org/>
- 連絡先: 三ツ林 (☎: 090-8382-9487, E-mail: y-mitsuba@jcom.zaq.ne.jp)